Zennoh-akita agriculture+reform

Za・あぐりふぉーむ

2024.1.5
Vol.47

目次

生産現場情報：	水稲単作から新規作目リンドウを導入して複合経営を目指す ～株式会社 ＴＳファーマーズ～	Ｐ１～４
営農支援情報：	令和５年産米　秋田県産作況概況	Ｐ５～8
県 外 情 報：	消費地の最前線で秋田米と県産青果物を総合的に販売	Ｐ９～10
ご　紹　介：	農業高校生研修を開催しました ～大曲農業高等学校と増田高等学校の生徒が参加～	Ｐ１１
	「朝ごはんモーニングキャンペーン」新米「サキホコレ」のおにぎりを配布	Ｐ１２
	お弁当レシピコンテスト～最優秀賞に秋田県の小学生が受賞しました	Ｐ１３
	はじめようスマート農業キャンペーン Z-GIS	Ｐ１４
お知らせ：	新米「サキホコレ」の無洗米が登場！～ＪＡタウン「おらほの逸品館」	Ｐ１５

生産現場情報

水稲単作から新規作目リンドウを導入して複合経営を目指す
～株式会社 ＴＳファーマーズ～

１．　法人設立の経緯

株式会社 ＴＳファーマーズは、山本郡三種町の南東部に位置し、自然豊かで緑濃い里山と八郎湖に注ぐ三種川沿いに広がる水田地帯で、水稲と県内で作付けが進むリンドウを新規導入し、家族で複合経営を目指す法人です。

法人設立のきっかけは、地域内における農業従事者の高齢化に伴い、水田受託が年々増加し経営面積が拡大したことや、ＪＡから大規模経営農家に対する法人化の勧めがあったこと、さらに経営を継承する息子さんが就農していたことで営農基盤を将来的にもっとしっかりさせたいとの思いで設立に至りました。

概　要
法人名：株式会社 ＴＳファーマーズ
代表者：代表取締役 工藤 司 氏、取締役 工藤 幸子 氏、　取締役　工藤 誉久 氏
所在地：秋田県山本郡三種町上岩井川字勝平
構　成：常時雇用 ２名、臨時雇用　延べ１５０人
設　立：令和３年１月４日

（株）ＴＳファーマーズの社員の皆さん
後方左側 工藤代表取締役
右側 奥様の幸子さん

令和５年度経営概要
経営規模：水稲３０ｈａ
（あきたこまち２４ｈａ、ひとめぼれ６ｈａ）
リンドウ０.２ｈａ（定植２年目）
※あきたこまち２４ｈａのうち１２ｈａが岩川水系米
６ｈａが特別栽培米
ひとめぼれは鹿児島県焼酎メーカー「萬膳酒造」へ出荷

※保有施設・機械：
作業場２８坪、リンドウ選花作業場（借用）１５坪
農機具保管庫３０坪
トラクター４台（６５～２８ＰＳ）、
田植機１台（８条植え）、コンバイン１台（６条刈り）
乾燥機３基（５０石×３）

２．経営の特色

これまで水稲単作経営で営農してきており、あきたこまち作付けの２４ｈａのうち１２ｈａを三種町ふるさと納税の返礼品「岩川水系米」を出荷しています。この米は、三種川流域に圃場を限定し、農薬成分を慣行の４０％減として、堆肥または有機質肥料を使って土づくりを行った圃場で栽培することが条件であり、ハードルが高い栽培となっています。

また、この「岩川水系米」以外にも「特別栽培米あきたこまち」を６ｈａ栽培しており、常においしい米づくりを追及して高付加価値を目指した栽培に取り組んでいます。

さらに、この地域ではめずらしい「ひとめぼれ」を６ｈａ作付けしています。これは鹿児島県の酒造会社に県内ＪＡから芋焼酎のこうじ米を提供する話がまとまり、ＪＡ秋田やまもとが「萬膳酒造」に出荷を開始することをきっかけに工藤代表も栽培を始めました。蔵元側は安心・安全な秋田県産米を使用することができることや、品質の良い米を確保することで製品の信頼性を高めることができると考えて取引が継続しており、この期待に応えたいと工藤代表は毎年努力を重ねています。

リンドウの生育は順調

令和５年に初出荷を迎えるリンドウ畑

新しい品目としてリンドウ栽培を令和４年から始めました。導入のきっかけは、夏場の収入確保を目指して新規作目を模索中にＪＡに相談したところ、リンドウ栽培を勧められ導入を決めました。

リンドウ栽培は手作業が多く地域の高齢者をアルバイトとして雇用できるし、このことが集落の活性化にも繋がるのではと考え２０ａの新規作付けで開始しました。

定植は４品種を選択して５月に終了し、定植１年目は株養成年であることから収穫は令和５年から始まりました。これまで水稲しか栽培経験が無く、花き栽培は素人で初めてだったのでとても不安だったと話します。生産技術・出荷のサポートは県振興局とＪＡがすべて担ってくれているのでとても助かっているとのことです。

また、収穫・出荷作業の不安を解消するため県内先進地である由利本荘市へ視察研修を行い、事前に選別作業場の借り受けや作業台の製作、配置などの準備を整えました。

令和５年の収穫初年目の作業は、「何もかも初めてだったので、ものすごくしんどかった」、「天気が良くて収穫が早まってしまい、田植え作業の後半と重なって大慌てだった」と大変さを話してくれました。慣れない１年目でしたが、令和６年にはさらに１０ａの作付け拡大を計画しており、その後も拡大を進め当面の目標をリンドウ作付け４０ａとし複合部門の柱にしたいと考えています。

リンドウの選花作業

選花作業で規格別に分類

３．今後に向けて

将来の方向としては、「これからも水稲の大規模経営を中心に営農をしていきたい」と話されていました。しかし、会社に水田委託を希望する人が今後も増えることが予想されるなか、これからは会社として無条件に受託するのではなく区画整備された圃場や、区画が大きい圃場、水管理のし易さや圃場までの距離が近いことなど、今ある労働力で効率的に営農が出来て収入確保が見込まれることを考慮して対処していきたいと話してくれました。

このため効率の悪い圃場は、貸主に戻すことも考えており、水稲作付面積も現在の３０ｈａから３５ｈａ程度までの拡大にとどめたいと考えています。

一方、リンドウは夏場の収入確保の面から拡大を考えており、出荷の選別作業の慣れを見極めながら当面は４０ａまでとしています。その先の拡大についても作業人数の確保と収入を見ながら考えていきたいと話してくれました。

「リンドウを初めて栽培し、出荷１年生だったけれど同じ生産者との出会いや、良い思い出ができた」と代表の奥様である幸子さんが、昨年（令和５年）の１０月１１日に岩手県安代町で開催された第１回リンドウサミットに夫婦で参加した時のことを話してくれました。リンドウ出荷全国１位の岩手県の生産者と直接話し、自分たちが生産者１年生で苦労したことを伝えると相手からは「最初はみんな同じだよ、難儀したけれど慣れきて出荷が増えてくると楽しくなるよ」と励まされたことが、自分たちのモチベーションをとても高めてくれたと嬉しそうに語ってくれました。

法人設立から３年目ですが、令和４年産、５年産の水稲収穫量が異常気象の影響により著しく低下したため、営農計画の見直しも含めてＪＡ等に相談しながら今後進めていく予定です。

「会社を設立すれば一番の課題は経営の安定化で、従業員を雇用すれば年間を通じての収入確保が重要になる。複合作目を導入したのもその選択肢の一つだった」と工藤代表は話します。

また、ＴＳファーマーズの会社名の由来は何ですかと尋ねると、代表は「Ｔは司のＴ、Ｓは幸子のＳで、ファーマーズは、会社は人で成り立っているからファームでなくファーマーズにしたんだ」と思いを語ってくれました。

さらに「Ｔは、後継者の誉久と、若い従業員のＳ氏が会社を継承してくれることを期待しているし、ＴＳの名前をそのまま使えるからね！」とも話し、工藤代表は若い力がこの地域の水田と農業を守り、継続して行ってくれることを願い、ご自身も現在意欲的に営農に取り組んでいます。

コンバインによる稲刈り作業

時間を多く要した令和５年産米の籾摺り調整作業

工藤代表取締役

令和5年産米　秋田県産作況概況

作況指数「97」、作柄「やや不良」

県内の予想収量は 552kg／10a（前年比－2kg）

1．　秋田県の作況指数・作柄

12/12 に農林水産省　東北農政局が発表した今年度の秋田県産米の作況指数は「97」の「やや不良」で、平均収量は 552kg／10ａとなっています。

地域別の作況指数は、県北が「96」、中央が「95」、県南が「98」となっており、いずれの地域も「やや不良」の作柄となっています。

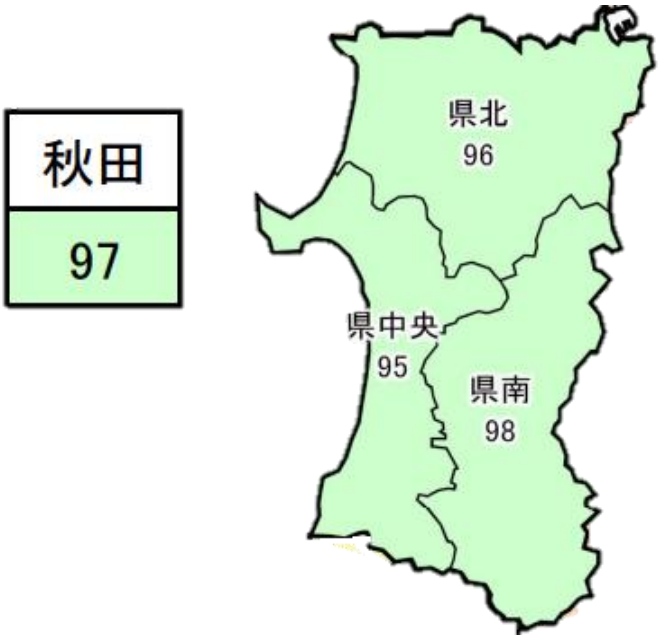

図 1　秋田県の作況指数（12/12 東北農政局発表）

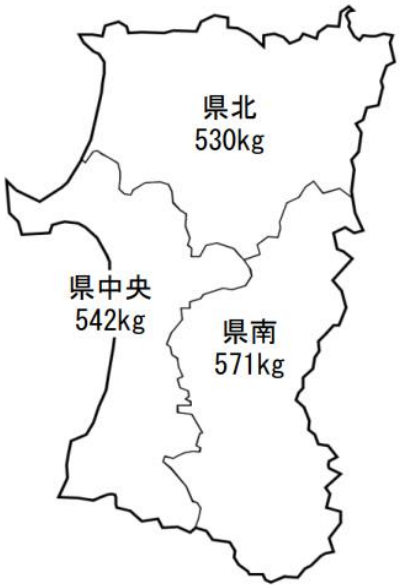

図 2　秋田県の地域別収量
（12/12 東北農政局発表）

※1　作況指数は、10ａ当たり平年収量に対する 10ａ当たり収量の比率で、過去５ヵ年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出。

今年の県内の水稲作付面積は 88,500ha で、前年産より 400ha 減少しました。このうち、主食用作付面積は 69,900ha で、前年産より 800ha 増加しました。

主食用の収穫量は 385,800ｔで、前年産より 3,000ｔ増加しました。

2.　令和５年産米の生育概況

令和５年産米の稲作期間中の気象は図１のとおりで、日平均気温は期間を通して高い日が多くなり、日照時間も多い日が続きました。一方、7/14～7/16 にかけて大雨となり、県内各地で圃場が冠水するなど、被害が発生しました。

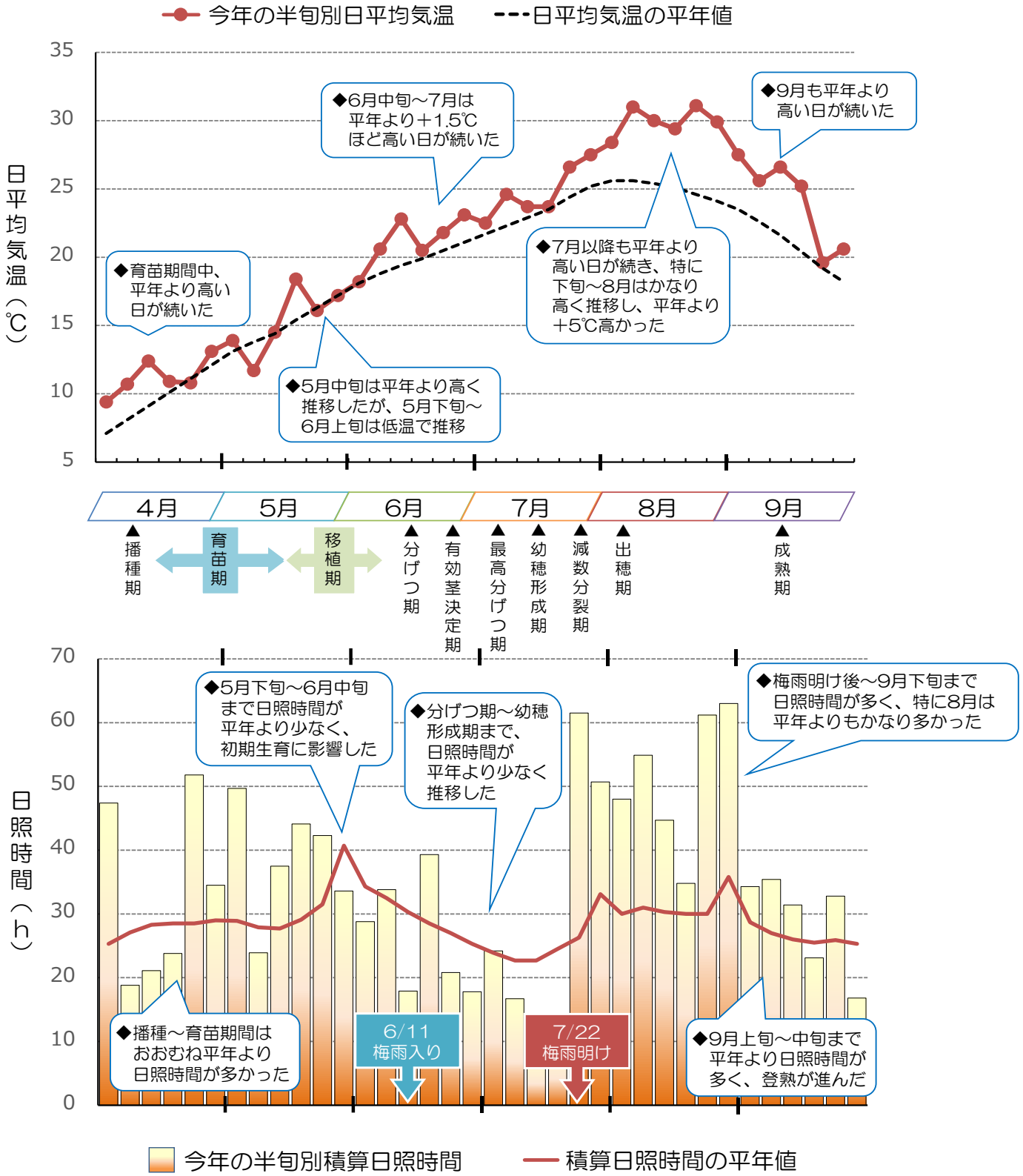

図　1　秋田市の半旬別日平均気温の推移（上図）と半旬別積算日照時間（下図）

（１）今年の生育概況

今年の春先は天候に恵まれ、播種作業や耕起作業は順調に進み、苗の生育も良好でした。田植え盛期は平年並みで、５月中旬は好天だったため、この時期に田植えを行ったところでは活着は順調でした。

しかし、５月下旬～６月上旬にかけて一時的な低温となったため、田植えの遅かった県北や県南地区を中心に、活着遅れや初期生育不良となりました。

６月の日照時間は平年より少なかったものの、日平均気温が平年よりかなり高くなりました。

また、最低気温も平年より高い日が続いたことから、日気温較差が小さく、分げつの発生が緩慢となり、最高分げつ期（7/5）の茎数は 448 本／㎡（平年比 92%）と少なくなりました。

梅雨明け後の日平均気温は平年よりかなり高く推移し、日照時間も多くなりました。特に 8 月の日平均気温は過去最高の 30.0℃（平年差＋5.0℃）となり、降雨量は 23.5mm／月（平年比 13%）とかなり少なくなりました。高温・多照が続いたため、出穂期は平年より 2 日早い 8/1 となりました。

出穂期以降も好天が続いたため、登熟は順調に進み、さらに刈取適期も平年より 10 日ほど早くなりました（表 1）。各地域の刈取作業は平年よりも早く始まった傾向にあり、刈取盛期は平年より 5 日早い 9/26 でしたが、9 月中旬～10 月中旬まで雨の日が多く、終期は平年並みの 10/15 となりました。

※生育状況や作業進捗状況は、県　各地域振興局調べ（水田総合利用課まとめ）によるものを参照しています。

表 1　積算気温による刈り取り適期（あきたこまち）

地域	出穂期			積算気温の到達日※1							
	2023	平年	平年差（日）	950℃				1,050℃			
				2023	日数※2	平年	日数	2023	日数	平年	日数
鹿角	8/1	8/4	－3	9/7	37	9/18	45	9/11	41	9/23	50
北秋田	7/28	8/4	－7	8/31	34	9/16	43	9/4	38	9/21	48
山本	7/30	8/2	－3	9/1	33	9/12	41	9/5	37	9/17	46
秋田	7/29	8/1	－3	8/30	32	9/9	39	9/3	36	9/14	44
由利	7/31	8/4	－4	9/3	34	9/14	41	9/6	37	9/19	46
仙北	7/31	8/3	－3	9/3	34	9/13	41	9/7	38	9/18	46
平鹿	8/1	8/4	－3	9/3	33	9/14	41	9/6	36	9/19	46
雄勝	7/31	8/3	－3	9/4	35	9/13	41	9/8	39	9/18	46

※１　アメダス観測値を用いて算出、平年の到達日は平年の出穂期翌日からの平年値を用いて算出

※２　出穂翌日からそれぞれの積算温度到達までかかった日数を表している

（２）令和５年産米の品質

東北農政局が 12/1 に発表した令和５年産の検査結果において、一等米比率は 58.2%で、昨年同時期と比較すると、▲31.8 ポイント（前年 90.0%）となっています。主な品種ごとの格付は表２のとおりで、秋田県の主力品種のあきたこまちで一等米比率が 57.6%と低くなっています。一方、秋田米新品種のサキホコレの一等米比率は 93.9%と高くなっています。

落等理由は表３のとおりで、形質による落等が 71.9%ともっとも多くなっています。

表 ２　令和５年産米の検査結果
（10/31 現在、東北農政局）

品種	検査数量（トン）	等級別比率（%）			
		１等	２等	３等	規格外
あきたこまち	198,911	57.6	37.2	4.2	1.0
めんこいな	14,172	51.8	42.0	5.9	0.4
ひとめぼれ	13,207	81.7	16.7	1.6	0.0
ゆめおばこ	4,433	17.0	49.8	32.2	1.0
サキホコレ	5,233	93.9	5.9	－	0.2

表 ３　令和５年産米格付理由

格付理由	２等以下※	
	本年	R1～4年の平均
形質	71.9%	44.5%
着色粒	16.3%	39.3%
整粒不足	5.9%	－

※本年は東北農政局発表データから、R1～4年の平均は稲作指導指針（秋田県農林水産部）のデータから算出

近年（過去４年間）の格付理由は、形質と着色粒が同程度でしたが、今年は例年にない高温・多照であったことから、充実度不足粒や白未熟粒が多く発生したと考えられます。ゆめおばこは高温登熟性が「やや弱」で、あきたこまちやめんこいな、ひとめぼれは「中」、サキホコレは「やや強」となっており、品種特性が表れた結果と言えます。あきたこまちとひとめぼれは同じ高温登熟性ですが、あきたこまちは早生、ひとめぼれは中生品種のであることから、刈取が遅れてしまったところでは、胴割粒の発生も多くなるため、あきたこまちで一等米比率が低下したと考えられます。充実度不足粒や白未熟粒は出穂期 24 日後頃までの高温で、充実度不足粒は登熟期間中の高温によって発生するため、対策としてはかけ流しや飽水管理により地温を下げることですが、前述したとおり、高温・多照による影響で用水の確保が難しかった年であったことも要因として考えられます。

3.　次年度に向けた対策

今年は例年にない猛暑となり、高温障害が多発し、品質が大きく低下した年となりました。近年は気象変動が激しく、その年によって対策が変化していますが、基本技術は変わりません。

秋田地方気象台が発表している、２週間気温予報や１ヶ月予報等で最新の気象状況を確認しながら、適切な水・肥培管理の選択を行っていただきたいと思います。

【高温年に有効な稲作技術例】

（１）生育初期に高温が予想される場合は、飽水管理が有効です。また、中干し後・出穂後にも高温となりそうな場合は、間断かん水より飽水管理の方が地温が低下することがわかっています。
→飽水管理は田面が露出することで、土壌に酸素が供給され、生育初期の異常還元で発生する根痛みを抑えるためにも有効な方法です。

（２）ケイ酸質資材を施用し、稲体を強化しましょう。
→ケイ酸質資材を施用すると、稲が病気や強風に強くなるだけでなく、乳白粒の発生も抑制することがわかっています。

米穀部 米穀総合課　☎018-845-8030

県外情報

消費地の最前線で秋田米と県産青果物を総合的に販売

ＪＡ全農あきた消費地販売事務所では、秋田米の需要拡大と県産青果物の直販拡大をすすめ、流通変化に対応したマーケティング機能強化を図り、消費地の動向を的確に把握した有利販売に努め、生産者の手取り確保に取り組んでいます。

三越銀座（首都圏百貨店）、ヤオコー南流山店（量販店）にて猿田副知事、小松会長、小林県本部長らがデビュー２年目のサキホコレ３００ｇを配付しました。（１１/２４）

横浜市場でのＪＡグループ代表による「長ネギ・椎茸」のトップセールス（１０/５）
県産青果物のＰＲと適正な価格転嫁に理解を求めました。

豊洲場外マルシェ出店にて（１１/１８）デビュー２年目の秋田米の最上位品種サキホコレの新米をはじめ、ねぎ、菌床椎茸や人気のトマトジュース「のむトマト」の販売ＰＲ。ミスあきたこまちによるＰＲのほか、なまはげによる会場内の練り歩きも実施。海外からの観光客も多く、たくさんの方に来場いただき、にぎやかなイベントとなりました。

ＪＡおきなわファーマーズマーケット「うまんちゅ市場」にて
ＪＡ秋田ふるさと「ふじ」を販売「全農東北マルシェin おきなわ」（１１/２３～２４）

ＪＡ全農は、２０１５年より東北の食の魅力を全国に広げることを目的に、「全農東北プロジェクト」に取り組んでいます。マルシェの開催や「東北六県絆米」、「東北六花」をはじめとしたオリジナル商品の開発を行っています。

ＪＡ全農あきた消費地販売事務所では、引き続き全国展開の販売促進機能をいかし、秋田米と県産青果物の総合的な販売促進と企画プロモーションを行い、秋田米と県産青果物の需要拡大に努めていきます。

また、市場、消費地情報の収集と情報提供を行い、産地情報を取引先へ発信し、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋となります。

消費地販売事務所　☎03-5843-4275

農業高校生研修を開催しました
～大曲農業高等学校と増田高等学校の生徒が参加～

ＪＡ全農あきたは、県内農業振興の一環として、次代を担う若いリーダー育成の一助を目的に、県内農業高校を対象に「農業高校生研修」を平成２１年度から実施しています。今年度は１１月１６日に、横手市にあるＪＡ全農あきた県南園芸センターで、大曲農業高等学校と増田高等学校の生徒７７人を対象に、県産農産物の流通実態や消費地での動向、近年生産現場で注目されるスマート農機に関する研修を行いました。

その後、ＪＡ全農あきたの職員が講師となり「全農の役割」や、米穀や青果物に関して「秋田県産農産物の流通実態と消費地の動向」についての研修のほか、ＪＡ全農あきた県南園芸センターにある菌床椎茸の選果場の見学を行いました。

参加した生徒からは「今回の研修で、スマート農業、農産物の流通のお話を聴き、農家や農家関係者が時間や手間をかけ作られたものを普段食べているのだと知り、改めて感謝したいと思いました。」といった声が聞かれました。

ＪＡ全農あきたでは、今後も次代を担う若いリーダー育成の一助となる取り組みを継続して行っていきます。

「朝ごはんモーニングキャンペーン」～新米「サキホコレ」のおにぎりを配布

秋田県や農業団体などで構成する秋田県ごはん食推進会議（事務局：秋田県）は１１月２２日、ＪＲ秋田駅で「朝ごはんモーニングキャンペーン」を実施しました。

このキャンペーンは、米を中心とした日本型食生活の良さをＰＲするとともに、毎日の朝食を呼びかけ、米の消費拡大と健康的な食生活の普及を図ろうと、平成１１年に始まりました。

今回用意されたのは、新米「サキホコレ」で作ったおにぎり３５００個です。佐竹敬久秋田県知事をはじめとする県職員のほか、ＪＡ秋田中央会小松忠彦代表理事会長、ＪＡ全農あきた小林和久県本部長、ミスあきたこまちなど関係者約５０人が、「朝ごはん食べてきましたか」などと呼びかけながら秋田駅利用者に手渡しました。

お弁当レシピコンテスト～最優秀賞に秋田県の小学生が受賞しました

ＪＡ全農が協賛する「『お気に入りのご当地を紹介！』お弁当レシピコンテスト」の入賞作品が決定し、秋田の食材を使用したお弁当レシピ２作品が受賞しました！

このコンテストは小学生が対象。住んでいる地域、日本の好きな場所、ふるさとなどの、お気に入りのご当地食材やご当地料理を取り入れたお弁当レシピを考案してもらうことで、子どもたちが料理を作る楽しさを知るきっかけにするとともに、国産農畜産物に対する理解を深めてもらうことがねらいです。また考案されたレシピにより国産農畜産物の良さを多くの人に伝えていきます。

最優秀賞：草薙 ことねさん（秋田県・小4）
作品名：**「世界で花咲け！サキホコレ弁当」**

「サキホコレ、比内地鶏、桃豚、秋田牛、ひばり野オクラ、大館とんぶり、三関せり、枝豆、男鹿の塩」と秋田の食材がふんだんに使用されています。

＜作者の想い＞

私が住んでいる秋田県では７月１５日に記録的な大雨が降りました。農業被害が日に日に拡大し多くの農畜産業の生産者さんたちに影響が出ました。地元秋田の野菜や肉を買って応援、食べて応援したいから、またサキホコレや秋田のおいしいものを海外の人にもＰＲしたいから応募しました。日本はもちろん、海外に住んでいる人など一人でも多くの人にサキホコレを知ってもらって、実際に食べてもらって「おいしい笑顔」の花が世界中に咲くといいなと願いをこめて、この作品名にしました。海外の人にも日本のお弁当の良さを目と舌で感じてほしいです。

＜審査員のコメント＞

サキホコレへの愛が溢れていて、秋田の名産食材もたくさん入っていて、ご当地感の表現がとても良いです。レシピに手順が細かく書かれていて時間をかけた作品と感じました。一つ一つの味付けに工夫とふるさと愛を感じます。とんぶり入りの卵焼きが贅沢な美味しさ。肉も牛・豚・鶏の３種入っていて盛りだくさん。油を使わない丁寧な肉の焼き方に感心し、健康志向への意識も感じました。お弁当の色合いや見た目もきれいです！

努力賞：宮田穂香さん（埼玉県・小3）
作品名：**「美味しいものをまぜまぜ弁当」**

秋田県出身の両親をもつ埼玉県在中の小学生が秋田県の食材と埼玉県の美味しい食材を使った「まぜまぜ弁当」です。

今ならお得なチャンス！
はじめようスマート農業キャンペーン
日々の作業を効率化しませんか？
2023年12月1日▶2024年3月31日
営農情報を地図で可視化！
Z-GIS
全農 営農管理システム
入会者（新規のみ）
利用料
ご加入から4カ月目まで 無料
例：2月15日申込の場合、5月末までの利用料が無料
申込みは
Z-GISホームページ……▶
または専用申込書から
Z-GIS 初級者向け WEB講習会開催
12月から毎月開催！メールでご案内
キャンペーン期間中の入会者向けZ-GISの初級WEB講習会を開催
12月19日、1月23日、2月20日、3月19日 ※すべて16:00～ 1時間
Z-GIS 全農 営農管理システム って…？
圃場管理ならお任せ！
管理項目別に色分け・地図表示可！
1
圃場が多くなってきて管理が大変だ！
白地図を電子化できるので、毎年の白地図の作成作業の負担が減りますよ。
2
電子化に落とし込んでもどの圃場がどの品種や作物なのか分からないんじゃないかな？
圃場ごとに色分けができるので品種や作物名等がひと目でわかりますよ
3
作業中にも確認したいけどどうすればいいの？
スマホで見れるので作業中も確認できますよ
【お問合せ】JA全農耕種総合対策部スマート農業推進課 TEL03-6271-8274 zz_zk_smart@zennoh.or.jp
JAグループ
全農

お知らせ

新米「サキホコレ」の無洗米が登場！～ＪＡタウン「おらほの逸品館」

令和４年産本格デビューの秋田米の最高傑作「サキホコレ」に無洗米がでました！
ふっくらとした粒立ちと噛むほどに広がる甘い風味が特徴の「サキホコレ」を、ぜひご賞味ください♪

無洗米

うまさ満開

ＪＡタウン
おらほの逸品館
はこちらから

Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
第47号　令和6年1月5日発行
編集・発行　JA全農あきた営農支援部営農支援課　〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24　018-880-1011